



核燃料サイクルに関するご意見

平成24年1月11日
内閣府 原子力政策担当室

核燃料サイクルに関するご発言(1/4)

□ フロントエンド関連

- 特になし

□ 再処理関連(1/3)

- 使用済燃料に含まれるウラン、プルトニウムは資源に乏しい日本にとって有用なエネルギー源であることから、着実に技術を蓄積し、将来の安定的なエネルギーの供給に貢献すべきである。
- 核燃料サイクルは、放射性廃棄物を減容することで環境への負担軽減も図れることができる。
- 六カ所の再処理について、やめろと言うつもりは今はない。竣工間近であるし、竣工しないと使用済燃料のバランスがとれなくなるし、中間貯蔵施設という名前での貯蔵施設の立地も困難になる。
- 核燃料サイクル技術は、日本が長年投資して培ってきたものであり、簡単にそれをどうこうすべきではない。
- 長い時間とお金を覚悟してでも使用済み燃料や放射性廃棄物への技術的解決を追求することが必要。
- 非核兵器保有国でありながら商用核燃料サイクル施設の保有を国際的に認められている唯一の国である我が国の有様が、核不拡散や核セキュリティに大きく貢献する。

核燃料サイクルに関するご発言(2/4)

□ 再処理関連(2/3)

- 核燃料サイクル政策において、六ヶ所再処理工場は根幹を担っており、また、国、自治体、地元の理解の下、竣工間際まで来ており、MOX工場建設なども含めて、不転載の決意で取り組んでいく。
- 使用済燃料の処分に関しては、ワンスルー方式で処分することについても研究開発を進め、将来政策的に採用できるオプションとして確保しておくべきである。
- 仮に原発を止めても既に存在する使用済燃料や原子炉の最終処分は不可避であり、国家として責任ある対応が必要である。フィンランド、スウェーデン等の取組に学び、国民的議論を行って解決すべきである。
- 使用済燃料貯蔵容量を確保することが重要であることから、ドライキャスク貯蔵による使用済燃料貯蔵を核燃料サイクルのワンステップとして確立すべきである。
- 核燃料サイクル施設の立地については、国のエネルギー政策に沿う重要な施設であることを確認した上で受け入れてきた。核燃料サイクル事業は、県民の協力の下で進められてきたが、国がエネルギー政策をゼロベースで見直すことについて、地元では使用済燃料がこのまま放置されるのではないかと不安が広がっている。もし、使用済燃料を資源として再利用しない場合には、それぞれの発生元にお返しすることがある。
- 全国に存在している使用済燃料の対策をしっかりと考えなければ、どのようなロードマップだろうが、エネルギー安定供給の観点から現実性の乏しいものになってしまう。

核燃料サイクルに関するご発言(3/4)

□ 再処理関連(3/3)

- むつ市で建設している中間貯蔵施設は、あくまでも使用済燃料を再処理するまでの間、一時的に貯蔵するための施設であり、直接処分する使用済燃料は対象としていない。
- 六ヶ所再処理工場は稼働しておらず、稼働したとしても処理できる容量は少なく、セラフィールドの事例を見ても核燃料サイクルは失敗しているとほとんどの国民が思っている。
- 核燃料サイクル政策は破綻を直視し、放棄すべきである。少なくとも、使用済燃料処分の問題が解決するまで、核燃料サイクル政策はモラトリアムとし、前に進めないという合意が必要である。
- 六ヶ所村の再処理工場の建設コストは計画変更を繰り返して大きく膨れ上がり、工場の稼働もトラブルにより延期を繰り返し、現在も稼働していない。高速増殖炉の「もんじゅ」も事故を繰り返し、長期の運転休止となっている。さらに、強い放射線を出し、数万年以上に渡り人間の生活環境から遠ざけて管理する必要がある高レベル放射性廃棄物の最終処分地も決まっていない。こうした現実を踏まえ、核燃料サイクル政策は見直し、直接処分の方法を検討すべきである。
- 使用済み核燃料の再処理はあまりに経済的コストが大きいため、早期に撤退すべき。使用済み核燃料の最終処分地が確定できないため、中間貯蔵として再処理が位置付けられているのではないか。そもそも使用済み核燃料で貯蔵プールが満杯になった段階で、原発の稼働が困難になる。先送りをせず、最終処分地を確定すべき。

核燃料サイクルに関するご発言(4/4)

□ 廃棄物関連

- 原子力の欠点として放射性廃棄物処分の問題が挙げられるが、安全に処分する技術は存在する。
- 今後廃止する原子力発電所が増加する際に備えて、国として廃棄物の最終処分に関する問題解決に向けたロードマップを作成すべき。
- 放射性廃棄物の処分場問題が解決しなければ、原子力の利用を制限する必要がある。
- 最終処分場の選定は、政治的に現実性がないため、原子力発電のコストも確定できない。
- 今の技術では、長期にわたって安全に放射能を封じ込めることは困難である。
- 現状の地層処分の計画がもっとも安全な方法でベストであると言うことは極めて疑問であり、将来世代の被ばくゼロを目指すという基本的な考え方をベースに、今ある技術というものをもう一度見直すべきである。
- 高レベル廃棄物の問題が未解決なのは何よりの問題。原子力発電を使えば必ず出てたまる危険な廃棄物を次の世代に送ることはしてはいけない。